

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立新栄小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	76.7	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	92.2	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	97.4	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎自分で学び方を工夫したり、学級の友達と対話や協働をしたりして、学びを深めたり広げたりする姿が見られます。

◎学校生活全般において、相手を尊重し、協力しながら活動に取り組む傾向が見られます。

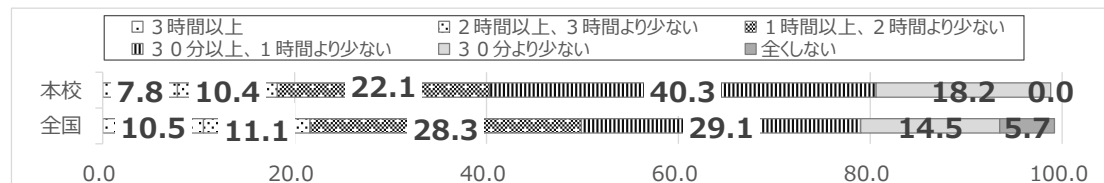
●前年度までに受けた授業においては、やや主体的な取り組みが少なかった様子が見えます。

●学校の授業以外における平日の学習時間が1時間未満の割合が約6割見られます。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	85.7	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	83.1	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	89.7	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	85.7	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	94.8	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	94.8	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎「学校に行くのは楽しいと思う」の割合が高く、多くの児童が学校生活を前向きに捉え、自分のよさを感じながら生活している様子が見えます。

◎人や地域社会に貢献したいという思いが高く、他者や社会への関心が育まれています。

●約86%の児童が将来の夢や目標を持っているので、残りの約14%の児童に対しても支援を継続することが求められています。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.7	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	88.3	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

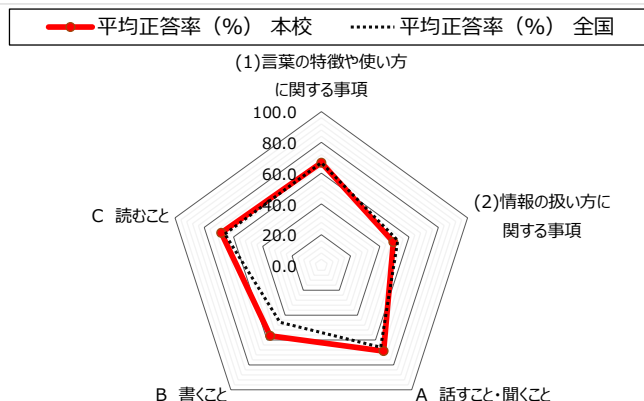
- 児童が自ら考え、選択し、対話をしながら学ぶ授業づくりを進めます。
- 児童が安心して自分の考えを表現し、互いの考えを尊重しながら学び合える授業づくりを進めます。
- 学習を振り返る機会を充実させ、自分をメタ認知できるようにしていき、自分の得意や苦手を把握させ、自分に合った学び方で学習を進めていけるように支援します。

【ご家庭では】

- お子様の話に耳を傾け、「どうしたの?」「あなたはほしい?」と考えを引き出す対話を大切にしてほしいと思います。
- 結果だけでなく、挑戦する過程にも目を向け、「何か手伝えることはある?」という、お子様の横で伴走するイメージで見守り、認め励ます言葉かけをお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	66.8	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	49.3	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	68.9	65.8
	B 書くこと	56.6	45.7
	C 読むこと	68.4	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	65.6	61.9
短答式	55.3	62.6
記述式	60.5	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎ 話や文章の種類とその特徴について理解する知識が定着しています。
- ◎ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができ、「記述式（書くこと）」に対して、力を付け始めています。
- ◎ ● 漢字が定着しているところと、課題となっているところが混在しています。漢字に対する苦手意識を払拭していく必要があります。
- 全国平均よりも正答率の高いものの、「効果的な引用方法」を学び機会、使う機会をさらに充実させる必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3一	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	81.6	76.7
2 三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中でただしくつかうことができるかどうかをみる	77.6	80.0

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中でただしくつかうことができるかどうかをみる	32.9	45.2
2 四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	46.1	33.5

調査結果を受けて

【学校では】

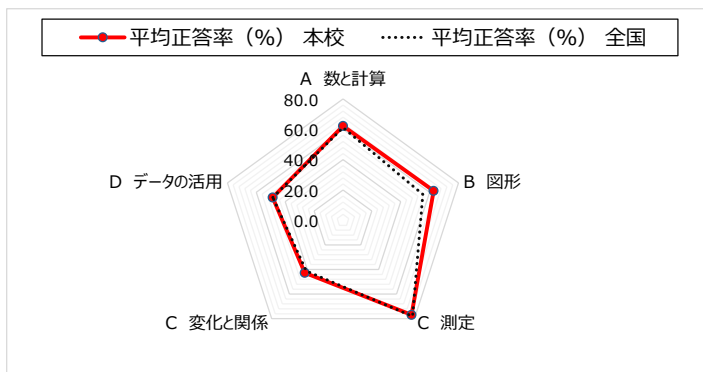
- 国語の楽しさを味わわせる授業づくりを行います。そのために、言語活動を充実させ、児童が学びに没頭する姿を目指します。
- 読む・書く・話す活動を関連させた授業改善を行ったり、漢字や言葉に興味関心を高める指導を行ったりします。

【ご家庭では】

- お子様の話を最後まで聞き、「どうしてそう思ったの？」と考えを引き出す対話を大切にされると、お子様自身が安心感を得るだけでなく、考える力や伝える力が育っていきます。
- テレビや新聞の話題や、地域の出来事など、社会に目を向けさせるとともに、自分の考えをもつ機会をつくってください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	62.2	61.1
B 図形	62.8	55.3
C 測定	76.9	78.1
C 変化と関係	42.7	41.1
D データの活用	48.7	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	56.9	56.0
短答式	62.0	59.7
記述式	50.9	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎ 基本的な図形の意味を理解したり、基本的な計算をできたりする力が育っています。
- ◎ 小数が整数と同じ十進位取りであることを正しく理解しています。
- 答えを求めることに加え、「なぜそうなるのか」を説明したり、複数の考え方を比較したりする力には課題が見られます。自分の考えを相手に伝える経験をさらに積み重ねる必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3(1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	91.0	94.5
1(1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	83.3	72.7

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
4(3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	12.8	17.9
2(3)	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるかについて判断できるかどうかをみる	35.9	36.1

調査結果を受けて

【学校では】

- 基本的な知識や技能を身に付けることができるようにするとともに、考え方や根拠を説明し合う活動を通して、思考力や表現力も育成していきます。
- 日常生活と関連付けを行いながら、自分事として学ぶことができるような授業づくりを行います。

【ご家庭では】

- 家庭学習や宿題等において、答えだけでなく、お子様がどのように考えているのかの解答に至るまでの過程に目を向けていただくと、お子様の意欲や思考力の向上が見られやすくなります。
- お子様が分からない問題に出合ったときに、すぐに答えを教えるのではなく、一緒に考えたり、ヒントを与えたりしながら、学びを進めていただくと、より効果的です。よろしくお願いします。